



平成 28 年 5 月 13 日

各 位

会 社 名 日本電子株式会社  
代表者名 代表取締役社長 栗原 権右衛門  
(コード番号 6951 東証第一部)  
問合せ先 取締役兼執行役員 経営戦略室長 大井 泉  
TEL (042)543-1111

## 中期経営計画「Triangle Plan」の策定について

当社グループは、平成 28 年度～平成 30 年度を対象とする新中期経営計画「Triangle Plan」を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 【基本方針】

当社グループは、平成 27 年度を最終年度とする中期経営計画「Dynamic Vision」(平成 25 年度～平成 27 年度)を策定し、成長戦略を果敢に実行し企業価値の向上および経営基盤の強化に取り組んでまいりました。そして、世界トップクラスのハイエンド理科学・計測機器と最適ソリューションをグローバルに提供し続けることにより、更なる収益率の向上および財務体質の強化を図り、重点戦略として 3 つの UP、「製品開発力 UP」、「ものづくり力 UP」、「ブランド力 UP」を据え、また、新たなコーポレートメッセージとして「Solutions for Innovation」を掲げ、多様化したニーズに応えることのできる真の Only One Company として、成長戦略を Dynamic に推し進めてまいりました。

その結果、平成 27 年度には連結売上高において「Dynamic Vision」の当初数値目標、および過去最高額を達成することができました。一方、第 4 四半期からの大幅な円高基調など市場環境の急激な変化の影響も大きく、残念ながら連結営業利益・経常利益の数値目標は若干の未達となりましたが、連結営業利益・経常利益・親会社に帰属する当期純利益において過去最高額を達成するなど、一定の成果をあげることができました。「Dynamic Vision」により安定的・持続的に利益を計上できる強固な経営基盤の土台を作ることができたものと考えております。

今般の新中期経営計画「Triangle Plan」では、前々期の中期経営計画「CHALLENGE 5」(平成 22 年度～平成 24 年度)における「経営構造改革」の成果および前中期経営計画「Dynamic Vision」における成長戦略を継承し、これまで推進してまいりました YOKOGUSHI 戦略を背景に、新たに“Speed”、“Difference”、“Change”の 3 つを更なる成長へのキーワードとして掲げ、成長戦略の深化・具現化により、適正な利益を継続的に創出することができる高収益中堅企業への変革を大目標としています。

#### ① Speed

当社グループでは多様化する分析・計測ニーズに合致した新製品・ソリューションの市場導入や成長著しい新興国市場への経営資源投入をタイムリーに実施してまいりました。今後益々加速する市場の変化への対応力を強化すべく、オープンイノベーションを推進するとともに、中堅企業としてのメリットを最大限に活かし更なる“Speed” UP を実現いたします。

#### ② Difference

当社グループは、究極の原子分解能分析透過電子顕微鏡 JEM-ARM300F、操作性と高機能をハイエンドモデルで両立させた多機能電子顕微鏡 JEM-F200、従来機種よりも大幅に小型化されながら性能と拡張性を向上させた次世代核磁気共鳴装置 JNM-ECZS シリーズ、最少反応液量 40  $\mu$ L での超微量分析を可能にした生化学自動分析装置の新ブランド BioMajesty™ ZERO シリーズ等、特徴のある競争力の高い製品を数多く投入しており、高い評価を頂いております。今後も市場が求める“Difference”を追求し、新しい付加価値を創出するために、製品開発力・ソリューション開発力強化に経営資源を投入し、Only One Company を目指します。

### ③ Change

近年では分析・計測対象の複雑化・多様化に伴い、多面的な分析が求められています。このようなニーズの変化に対し、当社グループは、様々な分析・計測装置を有機的に活用したソリューション提案を積極的に推進いたしました。また、事業展開においては常に新しいビジネスモデルを検討し、結果数々のオープンイノベーションに取り組んでまいりました。

環境の変化を迅速に捉え、既存のビジネスモデルから一歩踏み出し成長に向けた挑戦を続けていくことで、中・長期的な企業の成長が達成できると考えています。Triangle Plan の各セグメントでの目標達成と共に、成長に向けた自己変革“Change”に挑戦し将来の事業の柱を創出していきます。

#### 【数値目標】

平成 30 年度の数値目標として、連結売上高 1,200 億円、連結営業利益 75 億円、連結経常利益 70 億円を掲げました。

	平成 30 年度 目標	平成 27 年度 実績対比	平成 27 年度 実績【参考】	平成 28 年度 予想【参考】
売上高	1,200 億円	+126 億円	1,074 億円	1,070 億円
営業利益 (売上高営業利益率)	75 億円 (6.3%)	+14 億円 (+0.6%)	61 億円 (5.7%)	30 億円 (2.8%)
経常利益 (売上高経常利益率)	70 億円 (5.8%)	+16 億円 (+0.8%)	54 億円 (5.0%)	30 億円 (2.8%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	42 億円	+1 億円	41 億円	18 億円

当社は、「創造と開発」を基本とし、常に世界最高の技術に挑戦し、製品を通じて科学の進歩と社会の発展に貢献することを経営理念としております。創立以来 67 年の歴史の中で蓄積してきた要素技術・ノウハウ・グローバルネットワークを活かし、世界最高クラスの装置を提供する「分析・計測の世界において欠かせない企業」、さらには独自のソリューションと付加価値を提供する Only One Company となることを目指しております。

新中期経営計画「Triangle Plan」への取り組みにより、この理念と、コーポレートメッセージである「Solution for Innovation」の具現化を強力に推し進めてまいります。

#### 【株主還元】

当社は、財務体質の改善と企業体質の強化に努め、長期的な視野に立って安定的な配当を継続して行うことを基本方針としております。新中期経営計画「Triangle Plan」においても長期的・総合的視野に立った企業体質の強化ならびに今後のより一層の事業展開への備えとして内部留保の充実を図るとともに、安定的かつ継続的に配当を行うことを目指します。

以上